

メロディー♪

曽我小学校5年 学級通信 No.23

2026. 10. 5

○脱穀、もみすり見学

先週の前半は雨が降り、脱穀ができないモヤモヤした日々でしたが、木曜日に暑いくらいの日差しとほどよい風が吹き、竿に干していた稲束が一気に乾きました。脱穀実施の判断はお昼頃だったのですが、5年生はこの晴れ間にすべて終わらせるつもりで午後を待ちました。



乾いている稲を受け取り、脱穀機へ運びます。「もう一束持てます。」「もう10回以上だよ!」「6年生まだかな。」と暑さと重さに体力を奪われながら、ひたすら運びました。



そして、脱穀機を通したら終わりではなく、わらに残っている稲穂を手作業で切り取ります。



作業の途中でこぼれてしまった米粒も拾い集めて、「これ2kgぐらいあるんじゃない?」「まだお米が残っている!」「全部取りたい。」と自分たちが行っている活動が収穫量につながる大切な活動だと感じ取っているようでした。

5年生は下校時刻ギリギリまで活動をしたのですが、稲穂切りが終わらず終了を見届けることができませんでした。教室で「全部終わるかな。」「帰ったら手伝いに来てよいですか?」と話している姿があり、目標を達成するために一粒一粒の重みを感じられたのではないかと思います。ボランティアの皆さん、おやじの会の皆さん、脱穀をしてくれた4・6年生、稲穂切りをしてくれた1・2・3年生、応援してくれた曽我保育園の皆さん、準備をくださった保護者の皆様、曽我小学校の力を結集して脱穀を終えることができました。「米袋重かったね。」「145kgは行くんじゃない?」「俺たちが2kg分拾ったから!」と明日のもみすり見学に期待感をもてた日でした。



収穫したお米は稲毛竹男さん宅に運んでいただきました。竹男さんは子供たちが見学する時間に合わせて、じっくり乾燥を進めてくださり、水分量を調節する大切さや、機械を通して粳付きの米が玄米になる過程を教えてくださいました。

そして、いよいよ粳をとり収穫量が確定する時間になりました。機械のスイッチを入れると、タンクから乾燥した粳付きの米が流れてきます。



次の機械で、食べられないものをふるいにかけて、
粳をとっていきます。



袋詰めをする機械では、重さが表示されており、袋
の重さを引いて 30k g になると次の袋に代えるよ
うにと音が鳴ります。「まだ、お米残っている。」「今
2袋だから 60k g。」「100k g は行きそうだね」
とドキドキしながらも、機械をじっくりみたり、竹男
さんに質問をしたりして過ごしました。



120、130、140…「やった!」「目標達成!」と
喜びました。150、160…「すごい記録。」「みんな
集まれ!」と全員が数字に注目して祈りだします。



「170!、170!、170!…」と合唱が始まり、
170 を超えると「イエーイ!」と歓喜の舞が起こり
ました。最終的には、なんと 192k g! 大豊作です。
竹男さんにお礼のあいさつをして、学校へ帰る時、
「早くみんなに言いたい。」「お母さんには言っても
いいですか?」と興奮気味で「稲作をがんばってきて
よかった。」と語ってくれているようでした。

振り返り活動では、「うれしかった。」という感想だ
けでなく、「田植えでグサッと土に差したじゃない?」
台風とかで倒れにくくできたんじゃない。」「稲が倒
れた時にあきらめないで良かった。」「伝授しないと、
次の人たちが困るよ。」という意見も聞かれました。

この記録をどう伝承
していくか。5年生と
して新たな役割をもら
った形です。曾我小の
伝統である5年生の稲
作体験学習は、終盤に
突入です。